

EdTech 導入補助金2022

令和3年度補正 学びと社会の連携促進事業
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

効果報告レポート

【事業者名】

HelloWorld株式会社

【ツール名】

世界の教室を繋ぐWorldClassroom

【ツールの機能分類】

オンライン語学学習

2023年1月



世界の教室をつなぐ
オンライン国際交流プラットフォーム

授業が
変わる
世界が
広がる

世界の教室をつなぐ
WORLD CLASSROOM

WorldClassroomとは、音声認識技術等を用いたスピーキング練習機能や海外の学校との国際交流機能が実装された英語教育DXシステム。

2023年度は全国の中学校・高校33校・約15,000名に導入され、英語の授業の帯学習やパフォーマンステスト、宿題・課題など様々なシーンで活用される中で、新学習指導要領で重視されている「生徒の英語学習への主体性や学習意欲」や、教員の働き方改革が必要とされる中で「個別最適化された教科指導・業務効率化」への高い効果が出ています。

世界の教室と繋げて

ICTの力で、実践的な英語学習を実現！



- 自動で文法を添削！
- 教科書で習った単語熟語の活用判定！
- AIシーサーが会話をサポート！
- 海外の生徒との生の交流！
- 生徒の学習状況を可視化！
- スピーキングの正確性を自動判定！
- ステップを踏んだ練習が可能！



先生機画面

- 生徒の学習状況を可視化！
- 評価付けを客観的なデータでサポート！
- 単元毎のプロジェクトやパフォーマンステストに活用！

児童生徒機画面

- ゲーム感覚で実践的な英語学習！
- 実際に海外の生徒とつながる！
- 学習状況を可視化し、モチベーションUP！

月間利用料金：生徒1人あたり200～1,000円
※使用機能、導入人数や予算規模等に応じて柔軟な調整が可能です。トライアルによる無償導入も可能ですので、まずはご相談ください。

英語学習への主体性・学習意欲が激変

- 90.1% 英語を学習する目的が明確に
- 72.4% 英語で話すことが好きに
- 91.6% 学習意欲が向上

実用性の伴った英語力の向上

- 71.4% 自分の考えを英語で表現可能に
- 71.7% 英語が相手に伝わるようになった
- 66.8% 教科書の音読がスムーズになった

教員の教科指導改善・業務負担軽減を実現

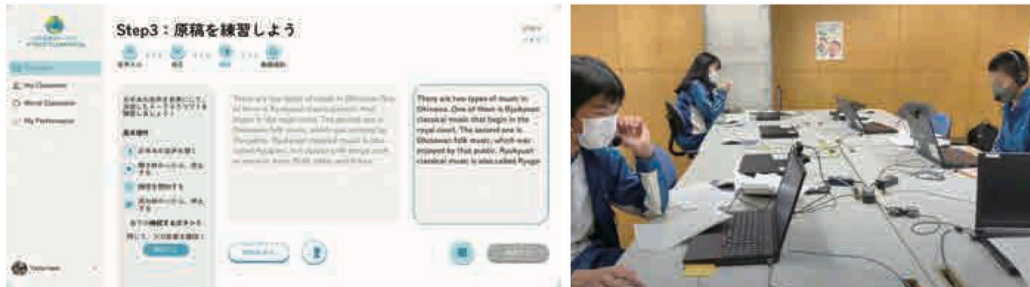
- 88.0% 教科指導・業務効率化に役立つ
- 92.0% 生徒に向き合う時間が増えた
- 100% 継続して利用したい

個別練習

My Work

音声認識技術を用いたプレゼン練習!

お手本になるネイティブの発音を聴きながらスピーキング練習ができます。生徒のスピーキングの正確性をシステムが自動で点数化します。可視化された練習の成果を見ることができ、ゲーム感覚で生徒のやる気を駆きたてます。



音読練習

帯学習に取り入れスピーキング力を向上!

毎日5分間、教科書の文章等を音読練習することで、日々の学習を記録し、可視化された練習結果を振り返ることで成長を実感することができ、生徒の自己肯定感とモチベーションを向上させます。

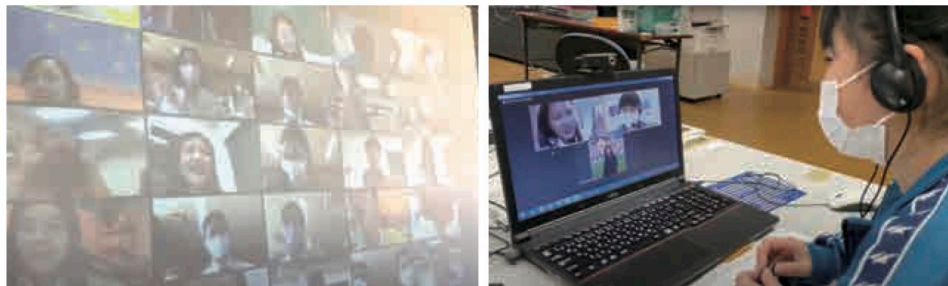


実践的交流

WorldClassroom

海外の生徒に実際にプレゼン!

実際に海外の教室とオンラインで繋ぎ、練習したプレゼンを実際に海外の生徒に披露できます! 1対1での実際のコミュニケーションを通じて、生きた英語を学ぶとともに英語学習の意欲を向上させます。日本にいながら、気軽に海外の同世代と交流できます!



評価自動化

Student Performance 生徒の練習データを可視化!

英語の4技能5領域においてSpeaking(発表およびやりとり)の評価付けは教員にとって大きな手間がかかっていました。システムを用いることで評価の判断材料となるデータを自動的に取得することが可能になり、教員の業務負担軽減に繋がります。



課題 1 生きた英語を学ぶ 機会が少ない

学校現場にはALTが配置されておりますが、人員数、予算に限りがあり、生徒が実際に学んだ英語を使って、自らの意見を伝える、コミュニケーションをする機会が乏しいのが実情です。

例えば、実際の英語の授業では、節目節目で、プレゼンテーションやディスカッションなどのプロジェクトがありますが、実際に英語を使う相手は日本人のクラスメイトになります。学習指導要領に記載されている3つの評価の観点のうち、「主体的に学習に取り組む態度」（主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること）や、「思考・判断・表現」（コミュニケーションを行う場面・目的に応じて、英語で表現・伝え合ったりすること）は、外国語でコミュニケーションをとることを前提にしてこそ身につくスキルですが、現状の英語教育環境では、それらを効果的に養うのは難しいのが実情です。

課題 2 大人数の生徒に対する 「発表」や「やりとり」 の指導・評価が 難しい

英語の授業では、テスト以外でパフォーマンステストと呼ばれる実践活動があり、その内容も指導や評価の対象となっておりますが、「書くこと」や「話すこと（発表とやりとり）」の評価付けにおいて、教員の負担が特に大きいのが実情です。

現状ライティング（「書くこと」）においては、生徒1人ひとりの英文を教員が添削しており、プレゼンテーション（「話すこと」）については、「生徒1人ひとりの発表内容を録画し、授業外で全員分の動画を見返して、発話した単語数を1つ1つ数えて評価付けをしています。しかし、いくら時間があっても足りない」という教員からの困惑の声が出ています（これらの声は実際に弊社が英語教諭にヒアリングした生の声です）。このように、ICTの力を駆使すれば飛躍的な効率化が可能な作業に、英語教諭の可処分時間の大部分が充てられてしまい、生徒への手厚い指導がしたくてもできない状況に陥っています。

課題 3 教員の 業務負荷の高さ

教員の長時間労働は慢性的に問題視されています。

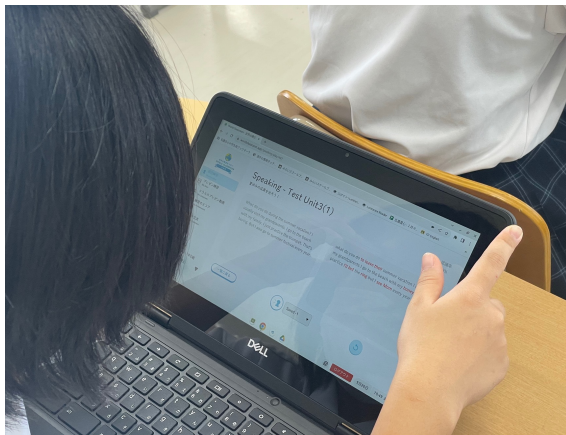
2019年1月には中央教育審議会が「学校の働き方改革」に関する答申を行い、勤務時間管理に関するガイドラインを示しています。しかし、実際には、新学習指導要領の運用に伴い、学校現場ではこれまでの業務（授業、授業準備、生活指導、保護者対応、部活動、事務など）に加えて更に多くのことが求められています。例えばカリキュラム・マネジメントの方策として「学校教育の効果を常に検証して改善する」ことが求められますが、質の高い効果検証はICTの活用なしにはどれだけ時間を使っても実現は困難です。

帯学習・パフォーマンステスト・英語学習の実践の場としての国際交流等、授業における活用の他、英検・スピーチコンテスト指導等課外授業においても有効に活用されました。

活用シーン①

教科書等音読練習

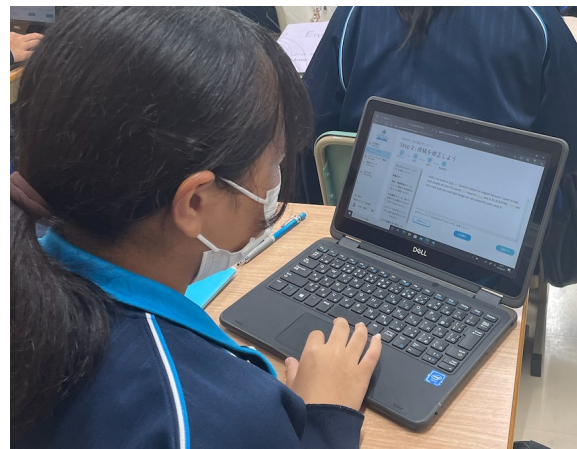
事前に教科書の文章を教員がWorldClassroomのプロジェクトとして登録し、教科書の音読練習として活用しました。また、帯学習として、毎回の授業の冒頭5分間を活用し、キーセンテンスを反復的に音読練習させる用途でも活用しました。



活用シーン②

プレゼン練習・テスト

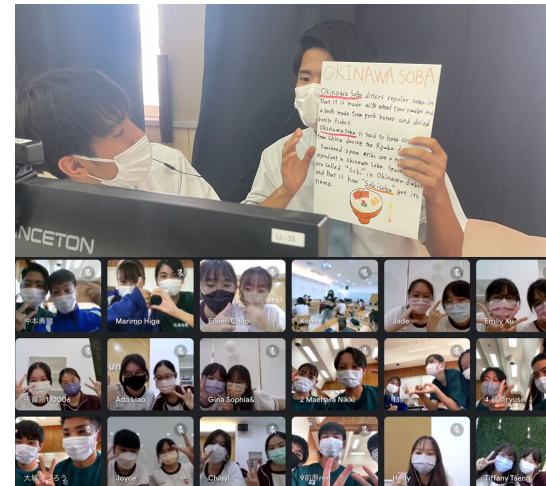
単元内の「Small Talk」や「Our Project」等スピーキングやライティングを行うプロジェクトにおいて、WorldClassroomを用いて生徒の作成した原稿についてプレゼンテーション練習を行いました。また、クラスの生徒が同時に動画を提出できて効率的に実施できることや、評価付けが補助されることから、パフォーマンステストの提出・評価付けにも活用されました。



活用シーン③

海外学校交流等

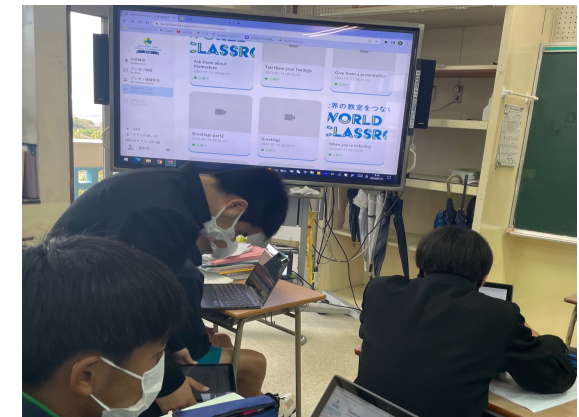
WorldClassroomで練習したプレゼン練習の成果を、実際に海外学校との交流で披露。17ヶ国の学校との交流を実現しました。生徒たちは、海外学校と交流することを目的にプレゼン練習を行い、実際に英語でプレゼンすることで、英語学習の目的がテストの成績だけではなく、海外の人とコミュニケーションすることにあることを学びました。



活用シーン④

その他 英検指導 等

英検の2次試験（音読及び面接）やスピーチコンテストの指導は、通常、教員が朝の登校時間前や放課後、土日祝祭日を活用して生徒の対応を行っていますが、今回はシステムを活用して、音読練習などを自主学习させることで教員の時間外労働を縮減させることが可能になりました。



1 音読練習機能の活用

帯学習で音読習慣の定着を

屋部中学校

先生が事前に音読教材を登録しておき、毎授業5分間を使って音読の帯学習を実践しました。教科書の本文が「どれくらい読めるか」ということを大切に、「認識率のパーセンテージが低くても大丈夫」と声かけを行いながら生徒の学習を促進し、2学期になるとほとんどの生徒が教科書の本文の音読で認識率80%以上のスコアが出るなど、英語が上達していきました。また全学年統一して、英検の二次対策として面談練習にも活用しました。



先生コメント

読める単語を増やしてほしいので活用している。生徒たちは読むことに対して抵抗がなくなって自信もついてきている。自主学習をする生徒が少しずつ増えてきたので、支援が必要な生徒に対して個別フォローできるのもいいなと思います。

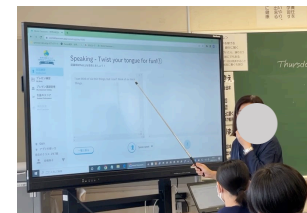


導入	授業	課外	
場所	教室	自宅	
目的	授業	宿題	その他
頻度	毎授業の最初 5 分間		

新出単語の練習に活用

小緑高等学校

事前に教科書の新出単語を登録しておき、授業の最初の10分程で単語の発音の学習として活用しました。目標認識率は生徒のレベルに合わせて設定。単元の中では単語の練習後に、教科書の音読練習、単元内容をもとにしたライティング・プレゼン練習・パフォーマンス課題の提出に活用。音読やプレゼン練習の際には、認識率よりも目標練習回数に焦点を置いて、繰り返し読む練習をしてもらえるよう工夫しました。



Speaking - Lesson 4 Part 2 Reading
音読を10回する!

Esports tournaments now take place online or in big arenas all over the world. Players compete against each other in various games, such as battle games, card games and sports games. Becoming a great esports player is often as difficult as becoming a great player of any other kind of sport. For example, players need to respond quickly and think hard about strategies. They also need good communication skills because they often work as a team. Today in Japan, more and more people believe that esports will change the society. Some high schools have special

esports, electronic, individual, advance, gamer, skilled, organization, gaming, for fun, in a way, as a result, battle, respond, strategy, society, basic, take place, such as, for example, more and more, physically, mentally, cultivate



先生コメント

授業の中で40名近くの生徒全員に対応することは非常に難しい状況なので、WorldClassroomを使うと生徒が自学で進めることができるため助かっています。手順も簡単で、生徒が意欲的に取り組もうとしている姿を見るととても嬉しい気持ちになります。



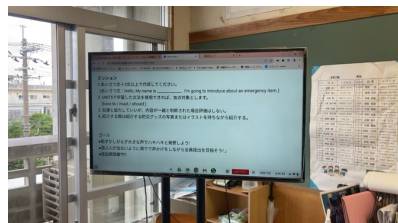
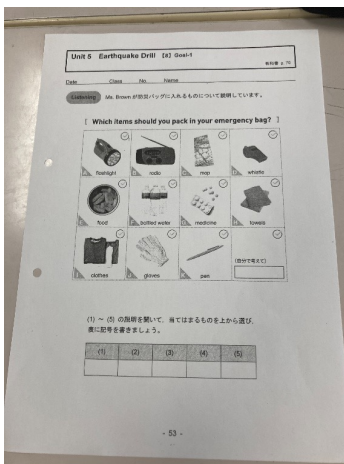
導入	授業	課外	
場所	教室	自宅	
目的	授業	宿題	その他

2 プレゼン練習機能の活用

防災プレゼン

東江中学校

「名護市で災害が起こったときに役に立つものを英語で紹介しよう」をテーマに、2年生の教科書事項である助動詞Should/have to単元に基づいた内容を使ったプレゼンテーションを行いました。導入時に先生から生徒に作成してほしいプレゼンのイメージを紹介し、学習に入りました。また、生徒にプレゼンを作成してもらう前に、防災グッズとその使い方をあらかじめ提示し、事前知識を持って活動に取り組んでもらいました。



先生コメント

発表原稿の内容に深みが出たり、**システムの生徒の操作もスムーズ**になってきました。ふだん寝ていたり私語が多かったりする生徒も、**意欲をもって取り組んで**いました。周囲の**生徒と協力して**取り組む様子がみられました。

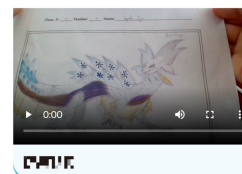
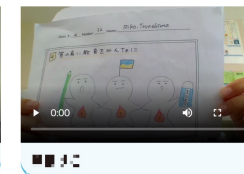


導入	授業	課外	
場所	教室	自宅	
目的	授業	宿題	その他
形態	単元最後のまとめプロジェクト		

オリジナルキャラクターを作ろう

与那原中学校

毎年3年生で実施している「自分のオリジナルキャラクターを作ろう」というプレゼン課題を、今年は練習から発表までWorldClassroomを使って行いました。生徒が絵を描いた紙を持ちながら画面に向かって発表するので、パワーポイントを作ってもらう手間がありませんでした。また生徒の1人1人の発表を見て、評価するという作業を授業の中で行う必要がなかったことでプレゼン課題にかける時間を大幅に削減できました。



ステータス	最高認識率	練習回数	単語数
step2終了	0%	0回	23単語
動画提出済み	11%	45回	38単語
動画提出済み	65%	58回	45単語
動画提出済み	60%	9回	55単語
step3終了	25%	3回	16単語
動画提出済み	40%	8回	27単語
step2終了	0%	0回	13単語
動画提出済み	41%	60回	42単語
動画提出済み	53%	34回	35単語
動画提出済み	39%	49回	34単語

先生コメント

これまで紙で作成、プレゼンしていたところを、初めてデジタルで行いました。**アナログ→デジタルへの負担も少なくスムーズに移行**できたので良かったです。



導入	授業	課外	
場所	教室	自宅	
目的	授業	宿題	その他
形態	学年プロジェクト		

3 国際交流の実施

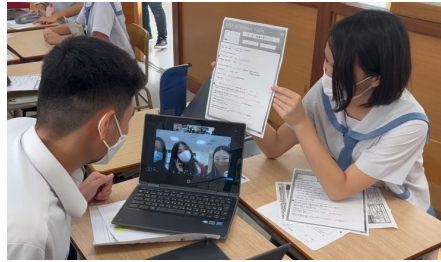
与那原町の魅力を伝えたい

与那原中学校

3年生7クラス(総勢240名以上)が一斉で台湾の高校生45名と交流しました。台湾と日本の生徒が混ざった小規模グループに分かれ、「自己紹介→1人2分の持ち時間で文化紹介や地域紹介→即興でのやりとり」に挑戦しました。異文化を学習する意欲と、英語を使って交流することへの積極的な姿勢が見られました。



与那原町の伝統である大綱引きの実演♪



先生コメント

Q. 国際交流授業を実施して良かったこと

準備したプレゼンはもちろん、フリートークでは間違いを恐れずどんどん発言していました。いつもの授業中ではみられない様子が見られて「これが本物のコミュニケーションだ」と私自身も実感し、生徒も英語学習の捉え方が変わると思います。



形式	オンライン交流	ビデオ交流	
学年	単学年	学年混合	
人数	30以下	30~50	50以上
相手校			

・ALTの先生からのコメント

It was very exciting to see students try to use English. Now, they don't think "oh, it's just a class." Maybe they can expand their world and make it the world a little bit smaller.

国際交流でポスター発表

寄宮中学校

寄宮中学校はトルコ・インドの学校との交流を実施しました。教科書で学んだことを活かしつつ発展させ、地元の観光地や食べ物について紹介を行いました。事前準備としてオリジナルの紹介ポスターを作成し、実際に手に持ちながら交流を行いました。



形式	オンライン交流	ビデオ交流	
学年	単学年	学年混合	
人数	30以下	30~50	50以上
相手校			

先生コメント

Q. 国際交流授業を実施して良かったこと

消極的な生徒から「もっと勉強しないといけないと思った!」という言葉がありました。海外の生徒に自分達のことを伝えたい、相手のことを知りたいという目的意識を持ってました。

Q. 国際交流実施までの準備

沖縄の文化や観光地、学校紹介など、生徒が紹介したい事柄を取り上げました。

Q. よりよい交流のための工夫

- ALTの先生を活用して事前に英作文作成
- 交流中はチャットも使いコミュニケーション
- 自作の英語ペラペラシートを配布
- 英語が得意・苦手な子のバランス考えてグループ編成



指導計画検討・操作説明・授業伴走支援・勉強会開催と、年間通じて教員のツール活用をご支援。
現場の先生方の創意工夫による優良事例を共有する場作りも実施。

サポート① 丁寧な問い合わせ対応等

WorldClassroomを活用した指導計画策定支援等

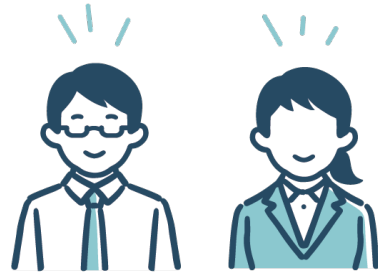
相談問い合わせ対応などとして授業におけるWorldClassroomを活用方法を英語教員と検討し、指導計画を検討しました。
授業において継続的に行うプレゼンテーション練習や、パフォーマンステストでのシステムを活用した評価付けの方法について検討しました。



サポート② 分かりやすい操作説明等

基礎操作の説明・助言等

教員や生徒がWorldClassroomを活用できるように、授業に立ち会うなどしながら操作説明、フォローアップを実施しました。
また、システム初回利用時や国際交流実施前にはWi-Fi環境、速度テストなどを実施しました。
教員の初回授業や新しい機能を活用した授業実施時には授業に立ち会い、システム利用方法を生徒に説明するなどを行いました。



サポート③ 丁寧なフォローアップ等

海外学校交流の事前調整、コーディネート、説明資料作成等

海外学校交流に向けて、事前に海外校とのアレンジ、日程調整等のフォローアップを行い、授業における生徒のモチベーションを高め、学校毎に説明資料の作成等を行いました。また、円滑な実施のために定期的にシステムの保守・メンテナンス等を行いました。



サポート④ 教員間の事例共有の場づくり

事例勉強会の開催

導入校の先生方の創意工夫により、多くの優良事例が生まれました。
それらの事例をオンライン事例勉強会を開催、また弊社で事例集をとりまとめるなどして教員間で、お互いの取組事例を活用し合える場づくりを行いました。



導入数

12自治体、25校

(中学校20校、高校5校 ※ 私立1校含む)

生徒11,160人にプログラム提供

満足度

アンケートに回答いただいた教員の

100%が継続利用を要望

来年度以降の 継続利用

12自治体中、7自治体 (58.3%)

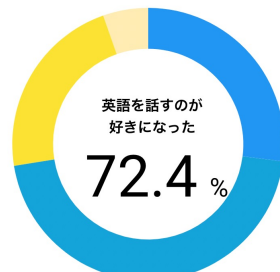
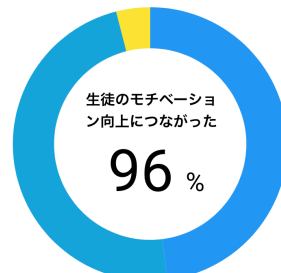
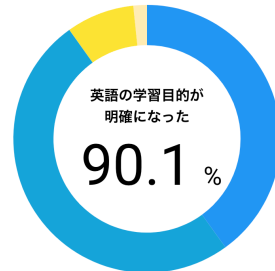
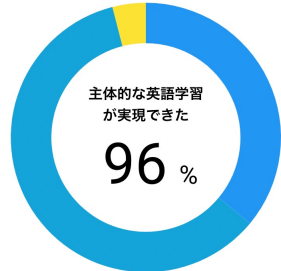
継続利用に向けて予算検討または財政等と調整中

考察1：生徒の英語学習への主体性・学習意欲が大幅に向上

海外校との交流を通じた生きた英語に触れる機会、ツール活用による個別最適化された学習環境が生徒に好影響を与えました。

教員アンケート

生徒アンケート



英語学習の目的が明確に

- 将来、英語を使う仕事に就くためにもっと英語をがんばろうと思いました。
- 英語の勉強をもっと頑張って外国に行きたいと思えました。
- 海外の人の交流で話せると楽しいなって思えるようになりました。

学習意欲が高まった

- 自分の実力がデジタル化されるからもっと上をめざしたいという意識が高まった。
- 相手に通じたときが嬉しくて、もっと通じあえるようにもっと英語を頑張りたいと思った。

楽しかった・英語が好きになった

- 海外の人との交流は新鮮でとても楽しかったです。
- 国際交流をオンラインでやって、もう時代はデジタルなんだなと思った。こんな授業を増やしてほしい。
- はじめは、国際交流に乗り気ではなかったけどいざ台湾の同級生の子達と関わることで興味とかワクワクさが湧いてきて楽しかった。他国の人たちと関わる機会がたくさんあるといいなと思った。

異なる文化・環境に刺激を受けた

- 相手側にペラペラの人がいたからすごかった。
- 海外の人と交流できてとても楽しかったし刺激になりました。
- 文化の違いを感じた。制服とかが全然違うし、みんなの制服も違っていたからびっくりしたしみんな自由で面白い。

[アンケート回答人数]：生徒アンケート 2,979件

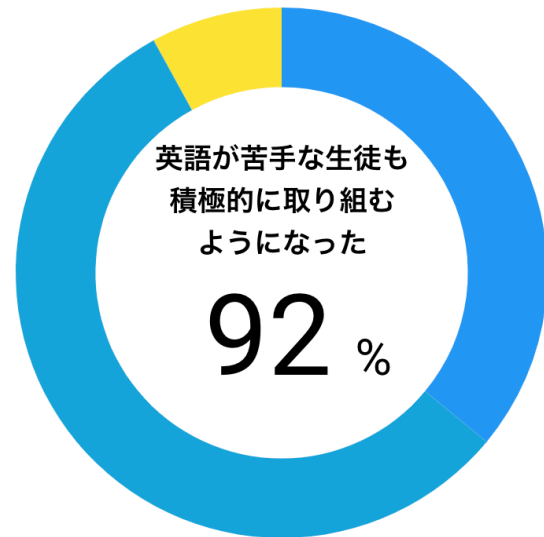
考察2：英語が苦手な生徒の学習意欲・態度にも前向きな変化が生まれました。

従来の一斉授業スタイルでは、苦手な生徒に完全に向き合うことは難しかったですが、システム活用により生徒のペースで学習が可能となり、学習意欲が向上しました。

音読・プレゼン練習機能の効果

- 生徒が何度も粘り強く、繰り返し学習する姿が見られた。
- model reading や認識率があるので、自主的に音読の練習をしたりできるようになった。何度も練習することで発音も良くなり、何を言っているのか聞く側もわかりやすくなった。
- 英語が苦手な生徒にとっては、音声認識技術によって、音読・プレゼンが自動でチェック・点数化され、何ができて、何ができていないかがわかるのはとても助かっている。

教員アンケート



● 1.とてもそう思う ● 2.そう思う ● 3.そう思わない ● 4.全くそう思わない

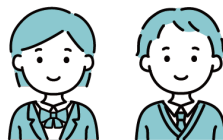
国際交流の効果

- 英語が苦手な生徒が、国際交流に前向きに参加している姿に驚いた。英語が苦手な中でも積極的にコミュニケーションを取ろうとしている姿、英語をコミュニケーションの手段に活用する姿から、生徒の成長を見れた。

英語が苦手な生徒に向き合う時間が増えた

- これまで30名のプレゼン練習に対応することはできなかったが、得意な生徒がシステム活用し練習をしている間に、支援の必要な生徒の指導が可能になった。

生徒コメント



- 英語がもともと苦手だったが、音読練習機能で発音を確認でき、英語が少しだけ理解できるようになったので良かったです。
- 初めて国外の人と接してみて、意外と楽しかったしいろいろ勉強になった。
- 今の時代は英語が言語としてとても大切で、英語を勉強する必要性が分かった。

[アンケート回答人数] 教員アンケート24件

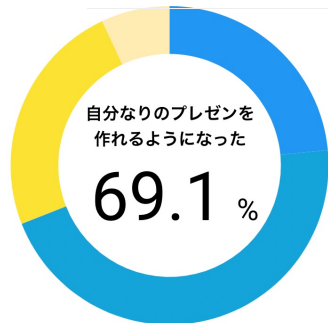
考察3：英語学習実践の場としての国際交流を見据えた授業実践ができ、実用性の伴った英語力が向上。

コミュニケーションで自分自身・地域・学校等身の回りのこと等を伝えることや、コミュニケーションを通じて相手のことを理解する経験やその準備としての英語教科学習を通じて4技能5領域が向上しました。

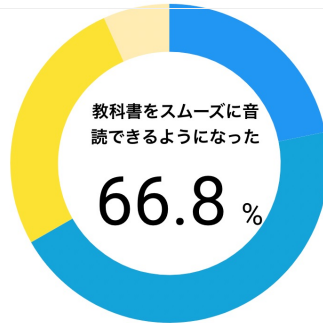
音読が上達

- どれだけ英単語を知っても、文法があってもやはり発音が良くないと、通じないし意味がないので発音の練習ができて良かったです。
- 自分が言った言葉のイントネーションが数値化して出るのが良いと思った。
- 発音とかを毎回確認しながら練習できた。

生徒アンケート



● 1.とてもそう思う ● 2.そう思う ● 3.そう思わない ● 4.全くそう思わない



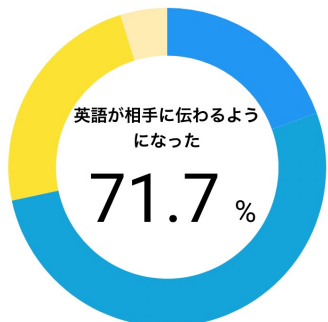
● 1.とてもそう思う ● 2.そう思う ● 3.そう思わない ● 4.全くそう思わない

英語プレゼンが上達

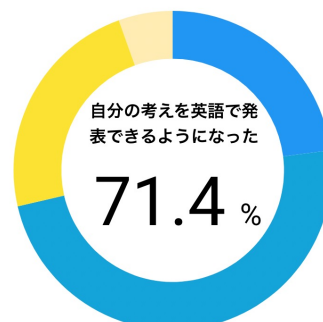
- 自分はプレゼンの原稿を書いて今までこんな長文を書いたことがなかったからうまくかけるか不安だったけど自分が書いた原稿でプレゼンがうまく行ったと考えるとめっちゃ嬉しくまたやりたいなと思った。
- 自分の実力が数字化されるからもっと上をめざしたいという意識が高まった。
- 苦手な英語の発音が良くなった。

自分の考えを英語で発信できた

- 新鮮だった。相手にどう伝えるか考えた。また海外の人と考えを共有したい。
- 発表が苦手な私にも簡単に意見を伝えることができました。最初はむずかったけどその後はちゃんとはなせてよかった。
- 今習ってる英語でも十分に話すことができることが分かった。



● 1.とてもそう思う ● 2.そう思う ● 3.そう思わない ● 4.全くそう思わない



● 1.とてもそう思う ● 2.そう思う ● 3.そう思わない ● 4.全くそう思わない

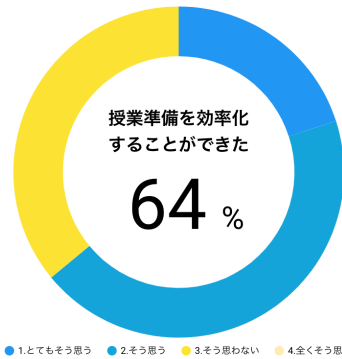
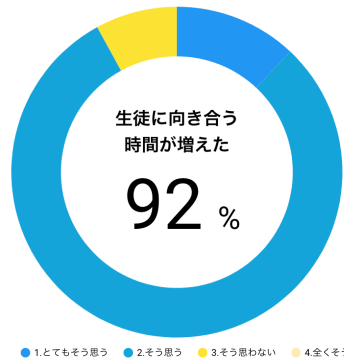
課題に気づけた

- WorldClassroomに取り組んでみて、他国との交流をしてみて、自分の英語の課題点と同級生とやっていたらわからなかった課題点や、わかって良かったなと思うし、楽しかった！！
- じぶんの英語の発音が悪いということがわかったし、相手がどんなことを伝えたいかが英語という世界共通言語で伝わるということがわかった。

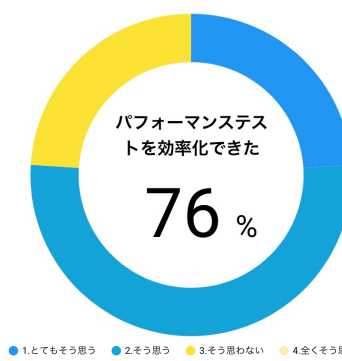
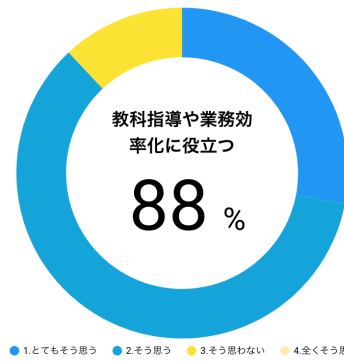
[アンケート回答人数]：生徒アンケート 2,979件

考察4：授業準備・パフォーマンステストの運用・評価づけ、教科指導を効率化。教員の業務負担縮減に寄与。業務効率化が実現できた分、丁寧な生徒指導・授業準備が可能になりました。

教員アンケート



平均47%の業務削減が可能



平均56% 業務削減が可能

生徒に向き合う時間の増加

- 生徒の変化に気づけるようになった。
- 支援が必要な生徒へ関わる時間が増えたと思います。一方で、できる生徒は自主的に進めるので効果的でした。
- 個別で練習することになるので、教師は各自の取り組み状況を見ながら、できない生徒のサポートに入ることができる。

授業準備等の効率化

- 単元学習後にはライティングを必ず実施しているが、紙のプリントで行っていたときと比較して回収・点数付け等が大幅に楽になった。生徒にとっても書くだけでなく、原稿をしっかりと読めるようになるまで取り組んでいるのも良かった。

教科指導への貢献

- 音読練習が数値化されるので、活動のモチベーションに繋がり目標をもって活動をさせることができる。
- 英語を単なる教科として受験用に学ぶ（学ばせる）感じだったのが、「伝えたい」という本来の言語学習の意義を生徒に実感させられたことが大きな収穫であった。私自身の授業への意識も変わった。

パフォーマンステストの効率化

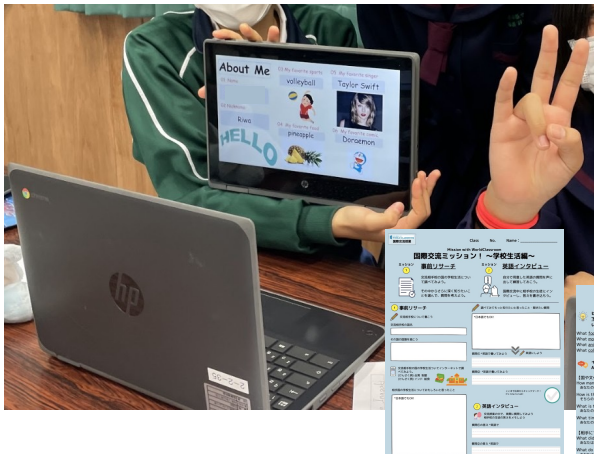
- 従来のパフォーマンステストではクラスの前で1人ずつ発表する形式だったが、それでは3時間ほど時間がかかっていたが、システムを用いることで生徒同時に行うことができ、時間が大幅に短縮した。また原稿や単語数、練習回数が表示されるので、評価付けもかなり楽になった。クラスの前で発表するのが苦手な生徒が、いつも以上にがんばっていることにも気づけた。

考察5：海外校に対する発表する場があることで探究的な学びにも繋がりました
海外の生徒にプレゼンを行うために、教科書の単元のテーマ（例：地域紹介・日本のポップカルチャー等）をについて深く調べ、自分の考えをまとめていく中で、探究的な学びが深まりました。

自己紹介・質疑応答

WCテンプレート活用

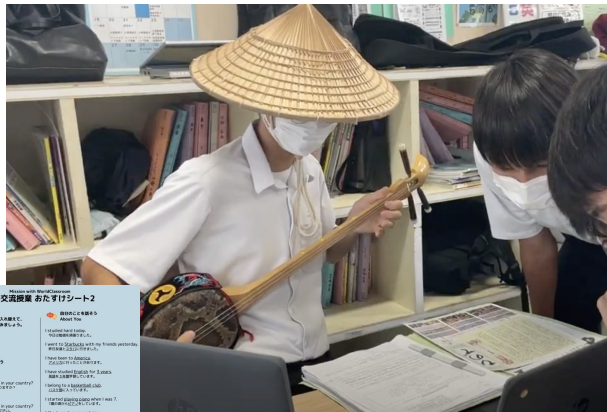
相手に関心を持ってもらうような自己紹介・地域紹介を英語で行うことは意外と難しいです。ただ、英語を話すだけでなく、自分が本当に伝えたいことを整理すること、自分が関心あることを相手から聞き出すためにWorldClassroomのワークシート等も活用して事前準備・当日の交流を行いました。



与那原町の魅力を発信

プレゼン／表現

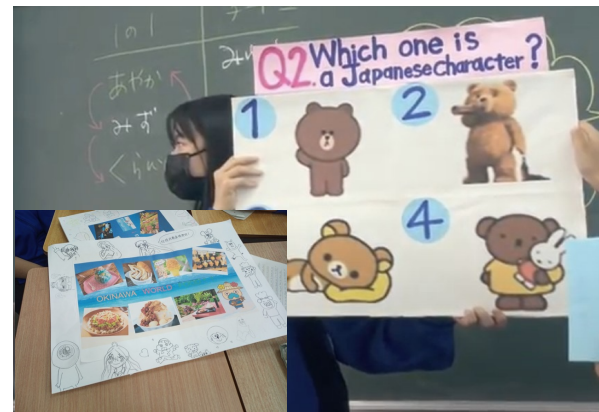
与那原町はMICE施設が建設予定される等、沖縄県内でも注目されています。海外の生徒に英語で与那原町の魅力を伝えるために、今も残る綱引き等の伝統文化、海産物、住みやすいまちづくり等をそれぞれの生徒が調べました。その上で、自分の特に発信したい内容について、英語で原稿を作成し、何度もプレゼンを練習しました。当日は、伝統学期「三線」を披露し、英語で説明する生徒もいました。



両国の観光・食の違い

ポスター発表

海外の生徒におすすめしたい沖縄の観光地や、両国の文化の違いなどをポスターにまとめて発表しました。日本（沖縄）について興味を持つ同世代の相手がいることで、調べ学習にも身が入り、魅力的なポスターが仕上がりました。海外の生徒の反応を通じて、日本の魅力を再発見することにも繋がりました。



自分の創作を紹介

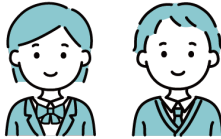
教科横断活動

美術の授業で創作した作品を英語で海外の生徒に説明する取組を行いました。英語の授業だけではどうしても準備時間が限られるため、他教科で時間をかけて行う取組と連動することで、質の高い発表が可能になりました。英語が苦手な生徒も時間をかけて取り組んできた内容なので、自信を持って準備・発表することができました。



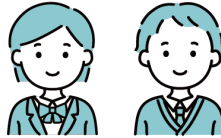
英語を学ぶ意味や目的が明確になり、英語に対する学習意欲が向上。
海外校との国際交流を取り入れた英語学習で、実践的で楽しい学びを実現。

英語の学習が
楽しくなった



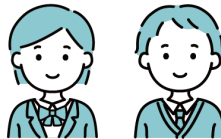
- 英語で会話をするに対して**とても興味を持つようになった**。
- 今まで自分の発音が当たっているのかわからず英語を学んでいたが、自分の発音が分かり、とても楽しく英語を勉強するようになった！
- プレゼンの原稿で長文を書いたことがなかったから、うまくかけるか不安だったけど、自分が書いた原稿で**プレゼンがうまく行ってめっちゃ嬉しく、またやりたいな**と思った。

英語が
上達した



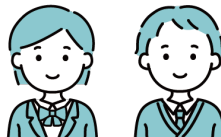
- 英語を**スラスラ読めるようになった**し、教科書本文の内容も少しずつ理解していくことができた。
- 発音を細かく練習するのは初めてで、自分の発音が良くなるようにお手本の発音をよく聞いて、採点してもらえるのが楽しかったし、**発音も上達できた**ので良かった。

自主的に学習
するようになった



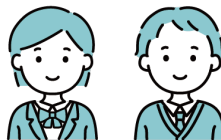
- 言えるまで**何回も何回も練習**して、お手本も何回も聞いたのでリスニングも良くなったと思う。
- 画面を意識してアイコンタクトを取るようにしたり声の大きさに気をつけたりするのが大変だった。でも音声練習で**高い点数を出せるように練習したのは楽しかった**。動画のときは少し緊張したけど自分なりにがんばれた。

生きた英語
に触れた



- 今まで日本人の先生に英語を教わり、実際に外国の人達と会話をしたとき通じるのかなとか思いながら授業を受けていて、今回の交流を通して、実際に伝わるんだ！**今まで習っていたことは無駄ではなく使えるんだ**思った！
- 他国で言語も違う人達と交流ができて楽しかった。今までは英語を習う意味とかあんまりわからなかったけど、**今回の交流で英語の大切さ**とかが**少しずつわかってきた**気がした。

探究的な学び
を実現



- **沖縄に関する**ことを調べて、相手への紹介に使った。簡単な英語で紹介できた。
- 台湾の方に自分の地域のことが少しでも伝わるように、わかりやすく話せるように原稿を作成できた。
- いつも話している言語ではなく、世界共通の言語である「**英語**」で**異文化の人と話せた**のが楽しかった。

導入校の先生方と1月18日(水)に事例報告会を開催しました。以下、パネルディスカッションでの先生らのコメントを記載します。



WorldClassroom (以下、WC) 導入の経緯

千葉晶子 (名護市教育委員会 指導主事) :

学習指導要領が変わり、3観点で生徒を評価すること、ICTを活用していくことが必要ということで、生徒の主体性を高めるため、教員の授業変化を生むためにWCの魅力を感じ、昨年度2校で導入し、今年度全校で導入しました。先生方が積極的に使っていたこと、生徒がはじめは恥ずかしっていたけれども、使い方が腑に落ちたときに周りを気にせずどんどん練習をしていく様子が見れてよかったです。間違いを恐れずSpeaking・Readingが練習でき、また伝えたいことをプレゼンにすることを1つのアプリケーションでできることがとてもいいと思います。今後、WCの活用によって生徒1人ひとりが海外に友達ができ、ゆくゆくは大人よりも子どもたちのほうが世界とつながり、世界平和にも繋がっていくと感じています。

小禄高校 萬木ちあき先生：生徒に端末が導入され、それを活用することは、ただでさえ忙しい学校現場においては不可能ではないかと思っていた矢先に、WCを知り導入を決めた。音読練習は単調なのですが、WCを活用することで、認識率が出てモチベーションが上がり、生徒達はかなり練習するようになりました。生徒の中にはこれまでの合計で、840回取り組んだ生徒もいて、自主性が育っています。自習のときに、これまでプリントを用意して学習をしてもらっていたが、WCに課題を上げて取り組むことで、自習のプリントの回収・返却が不要になることにも気づきました。

生徒の変化

屋部中学校 伊志嶺あかね先生：これまで音読練習を行う中で、3学期に入ると何回練習すると何点取れるようになるかが生徒がわかるようになり、教師が何回練習しなさいと言わなくても生徒が自ら練習するようになり、生徒のほとんどが英語の教科書を読めるようになったのに私自身嬉しく感じます。

寄宮中学校 兼島こずえ先生：音読の際に普通に3回読んでというモチベーションが持たないのですが、WCを活用することで認識率や上手く読めなかったところが赤字で表示され、ゲーム感覚で楽しみながら練習している様子が見れました。また国際交流を通じて誰かともっと話したいという声が出て、英語学習に前向きに取り組む生徒が増えたと感じています。

英語が苦手な生徒の変化

与那原中学校 嘉陽大知 先生：音読・プレゼン練習では最初はなかなか読めなくても、少しアドバイスをしたあとに点数が上がっていくことから、自分の英語が伝わったことにやりがいを感じる生徒が多くいました。英語が苦手な生徒に自主性の変化が見られる傾向にあると感じました。

英語が苦手な生徒が、国際交流に前向きに参加している姿に驚きました。英語が苦手な中でも積極的にコミュニケーションを取ろうとしている姿、英語をコミュニケーションの手段に活用しようとしている反応から、生徒の成長を見れてやりがいを感じました。

前原高校 平良 順子先生：英語力の高い生徒と苦手な生徒が混ざっているクラスで、音読・国際交流を通じて、英語を休み時間の廊下とかでももっと使うようになりました。

教員の働き方改革・授業実践の変化

与那原中学校 嘉陽大知 先生：生徒指導や教材準備など教科外の活動は終わりのないものですが、本校はPCを自宅に持ち帰ることを許可しており、自宅で練習して自宅で音読練習ができるので、新出単語の練習を授業内で行う必要がなくなり、質の高い授業を行うことができるようになりました。プレゼン練習機能についても英語の原稿添削機能もあり、1人ひとりへの文法指導が不要になっているので、授業が効率化されていてとても助かっています。

小禄高校 萬木ちあき先生：これからもっと導入する必要がある「パフォーマンステスト」は1クラス実施するだけで3時間、そしてチェックするのも本当に時間がかかるのですが、WCを活用することで効率化されとても助かっています。プレゼンを行う前に練習をするのですが、生徒自身発音がわからないので不安な中、先生に確認してもテストなので教えられないことがありました。WCを活用することで発音を確認して何度も練習して万全な状態で録画することができるので、生徒にとって、とても良いと思います。コロナ感染者・濃厚接触者が学校にこれない状況の中で、休んでいる生徒も自宅からパフォーマンステストができます。

与那原中学校 嘉陽大知 先生：スピーチコンテストの指導には夏休みほぼ毎日対応が必要だったのですが、これを活用することで自習してもらうこと、学校で指導することに分けていくことができます。



● EdTechを支える学習インフラ面の課題

- 学校の通信インフラが不安定で、複数クラスでの端末利用または悪天候時には、ビデオ通話はもちろんのこと、アンケート回答のためのGoogleフォームを開くだけでもスムーズに行かないことがあります。WorldClassroomの国際交流は、海外校の都合もあり確実な実施が必要のため、弊社がモバイル Wi-Fiなどを用意して対応したこともあります。通信インフラの改善は必須です。
- 高校の場合は端末を生徒・保護者が独自購入するために、生徒が利用する端末がバラバラで、EdTechツールを活用する際の質問対応の際に、異なる端末の操作に慣れない教員の負担が大きくなっています。
- 英語のEdTechツールの場合は、音声の出力・入力のためにイヤホン・マイクが必要であるが、端末は配布されていながらも、イヤホンが配布されていない学校がほとんどです。

【改善策】

- 学校インフラに関しては、ICT支援員やICT担当課に協力いただき、最適な通信・ルーター設定を行うなどの対策が必要です。
- 端末については、大量購入によって価格を下げることやイヤホンマイクを無料付属することも考えられるので、学校で端末を統一し購入することも検討の余地があります。

● 教科横断型の探求型の学びの実現

- 【英語科】は、「英語」そのものを学習するだけでなく、「英語」を通じて海外の文化や自国・地域の文化等・国際情勢など様々な事柄に関する学びを深めていける科目です。今回の取組では、海外学校交流を日頃の英語学習のアウトプットだけでなく、単元のテーマを探究し、自らの考えをまとめて発表する機会にもなりました。ただし、英語で発表するための英作文・プレゼン練習時間を考えると英語科だけの時間では、探究的な学びに時間を十分に避くことができないことが浮き彫りになりました。

【改善策】

- 総合的探究の時間等の他教科と英語学習を接続しながら、考えをさらに深めて、英語でのアウトプットの質を高めていくことで、さらなる学習効果が期待できます。（既に取り組んでいる学校の事例を、共有する機会もつくり、教科横断型の学びを実現します。）

● 財源確保の課題

- 教育委員会では自治体内で配分されている予算の上限を既存事業で使っているところが多く、加えて年々必要性が増している特別支援学級のための費用が増えており、新規の事業に予算を当てるのが難しい状況にあります。
- 教育委員会の中の学校教育管轄課の職員のほとんどが教職で行政職が少なく、事業新設のための書類作成・財政課等との折衝に慣れている職員が不足しています。
- 自治体の産業関連部署とは違い、事業を新設するための合意形成に必要な関係者が多く、また公平性の観点から管轄の全ての学校の同意がとれていないと事業を上げることが難しい場合も多く、自治体の予算計上のスケジュールに間に合わせる事が困難となっています。

【改善策】

- 8～10月の次年度予算折衝時に効果検証資料を出すことから逆算し、段階的に効果検証結果を資料化する必要があります。

■ 会社概要

会社名 HelloWorld株式会社 (HelloWord Inc.)

所在地 沖縄：〒904-0004 沖縄県沖縄市中央1-7-8
 関東：〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町16-5 S-TOKYO内

連絡先 wc_support@hello-world.city

資本金 1,000,000円

売上 2,555千円 (2020年度)、23,087千円 (2021年度見込)、130,000千円 (2022年度見込)

主要取引先 (導入校)

- WorldClassroom
 全国の教育委員会管轄の中学校・高校
 (東京都：墨田区、大阪府、沖縄県内：沖縄県、名護市、本部町、宜野座村、沖縄市、宜野湾市、那覇市、与那原町、豊見城市)、及び私立学校 等
- まちなか留学
 全国の教育委員会管轄の中学校・高校及び私立学校
 大手教育旅行代理店・留学エージェント 多数 等

代表者 代表取締役 野中 光
 代表取締役 富田 啓輔 (弁護士)

取締役 取締役 上里 幸俊 (沖縄市市役所において部長職を歴任)

事業内容

- まちなか留学
- 世界の学校を繋ぐ WORLDCLASSROOM
- SDGS 推進/国際交流
- グローバル人材育成事業コーディネーター



日本経済新聞 2022年10月6日

国内在住外国人宅ホームステイ
マッチング事業



世界の教室をつなぐ英語教育DX
プラットフォーム

